

仙台市民が **仙台防災枠組** から考える事例集

未来へつなごう私たちの BOSAI 2019



この事例集は、2016年より東北大学災害科学国際研究所と仙台市が「仙台防災枠組 2015-2030」を学ぶ場として市民向けに開催している連続講座の中で、「ともに考える防災の未来—私たちの仙台防災枠組講座シリーズ」の受講生がグループワークを行い、作成したものです。今後、2030年までにさらに内容を充実させ、更新していきます。



経験をつなぎ、そして未来へ

防災環境都市・仙台

過去の災害の経験から…



東日本大震災の時は、想像以上に揺れがひどく、車やバスがはねるほどだった。大地震になるとこれほどひどいことになるとは、実際に地震が来るまで想像もできないことだった。

電気、水道などライフラインがすべて止まり、携帯電話も繋がらなくなった。特に水が止まったのは大変で、長期間手動でポンプでの水汲みをしなくてはならなかった。



小学生が帰宅困難になった学校があった。保護者が迎えに行こうとしてもすごい渋滞で大変だった。

避難所にたくさんの方が避難し、夜遅くまで食料の準備をした。避難者の中には赤ちゃんのいる家族の姿もあった。皆で助け合って乗り切り、その時の赤ちゃんたちは無事小学生になった。



災害に関する知識が不足しており、どうすればいいか分からなかった。地域で、豪雨災害時に川を見に行き行って亡くなった人もおり、日頃から防災について正しい知識を蓄えておくことが大事だと思った。

避難所運営など、災害時には皆で助け合うことが必要不可欠だと分かった。東日本大震災当時は顔を知らない近所の人が多かったので、日頃から様々な形でつながりを作っていき、顔の見える関係になっておくことが必要。



いざ災害が来ると、毎日目の前のことをこなすだけで精一杯で、必ずしも理想通りにいかないこともある。その中で大事なものは、周りの人に対する思いやりの気持ち。

東日本大震災では非常に大変な思いをしたが、その経験を生かし、より良い復興のために何ができるかを考え、行動することが大切と知った。



「4つの優先行動」どんなことができる？

仙台防災枠組では、防災・減災のために「4つの優先行動」に基づいて行動することが必要とされています。

優先行動 **1** 災害のリスクを理解し、共有すること

優先行動 **2** 災害リスク管理を強化すること

優先行動 **3** 防災・減災への投資を進め、レジリエンスを高めること

優先行動 **4** 災害に十分に備え、復興時には
「ビルド・バック・ベター（より良い復興）」を実現すること

💡 地域を知る **1**

- ・過去の災害について知る
- ・地域の歴史をたどる
- ・地質を研究する
- ・広報誌やSNSを使って情報収集する
- ・親子でまちあるき探検をする

👤 防災訓練に参加する **1 2 4**

- ・地域の防災訓練に参加する
- ・訓練に参加している他の人を知る
- ・訓練の時に地域の名簿を更新する
- ・避難場所を把握する

📦 備える **3**

- ・防災グッズを取り揃える
- ・非常時持ち出し袋の中身を再点検する
- ・家の中の安全性を高める
- ・集団移転した人達のサロンを開催する
- ・まちのコミュニティを強化する

🏠 防災訓練を運営・実施する **2 3**

- ・防災訓練の打ち合わせに参加する
- ・防災訓練への参加を呼びかける
- ・身の丈にあった訓練計画を立てる
- ・訓練の時に避難誘導する
- ・訓練の時に子ども達の見守りをする
- ・企業に参加・協力を呼びかける
- ・訓練の中で防災・減災講座を開く

↑ 防災意識を高める **2 3 4**

- ・自助・共助・公助の必要性を伝える
- ・防災にいくらお金をかけられるか考える

📖 防災・減災を学ぶ **1 2 3 4**

- ・防災・減災講座を受講する
- ・学校の防災教育と地域防災をタイアップする
- ・自分のできること、役割を認識する
- ・大学やNPOと一緒に勉強会をする
- ・自分の地域だけでなく、旅行先で災害に遭った時のリスクを知る

学んだ人が防災・減災に時間やお金を使い、
そして生きる知恵を発揮するようになる



「防災の主流化」を進めるには？

防災の主流化…普段の生活に、自然な形で防災の視点を盛り込むこと

👥 イベント・お祭りの活用

- ・ イベントの中に防災訓練を盛り込む
- ・ お祭りなど、人がたくさん集まる機会にあわせて防災訓練を行う
- ・ お祭り会場で防災のブースを出す
- ・ お祭り会場でハザードマップを配る

💬 情報交換・学びの場

- ・ SBL※1 がもっと多くの住民と知り合う
- ・ 市民どうしの情報交換、学びの場をつくる
- ・ 他町内会と情報交換する
- ・ 自治体と連携する

📍 表示やグッズを作る

- ・ 浸水箇所の標識を作る
- ・ アンダーパス(立体交差)など、危険箇所を分かりやすく表示する
- ・ 災害時に地域で使うグッズ(無事を知らせる旗など)を作って、配布しておく

🏫 学校の協力を得る

- ・ 学校の授業に防災のカリキュラムを作る
- ・ 学校で防災講座を開催する
- ・ 学校の授業で災害の経験を継承する講演会を行う
- ・ 防災ゲームで作ったマップを学校内に掲示する
- ・ 避難訓練や防災訓練を実施する理由について子ども達に教える
- ・ 学校で非常食「サバ飯」を作る

📋 備えの点検

- ・ 備蓄品を点検する
- ・ 各家庭の防災対策について点検をする
- ・ 防災グッズの見直し会をする
- ・ 通学路の危険箇所をチェックする

👁️ 計画の中に防災の視点を入れる

- ・ 町内会の予算に防災・減災を組み込む
- ・ まちづくり構想の軸に必ず防災・減災を置く
- ・ お祭りなど、年間行事に防災を取り入れる

📅 日頃からの取り組み

- ・ 町内会の緊急連絡網を普段の連絡にも使ってみる
- ・ 地域の催しで避難所を利用した時に、避難所であることや災害時のことを伝える
- ・ 食料のローリングストックを習慣づける
- ・ 町内会の普段の活動を大事にする
▶ そのために日頃から笑顔・元気である

♥️ 思い出す・忘れない

- ・ メディアが震災関連の番組を制作し、放送する
- ・ 東日本大震災の月命日(毎月11日)を大事にする
- ・ 「家族防災の日」を決める
- ・ 「災害は必ずある」という意識を持つ(災害のない地域はない)

📱 手頃な防災・減災

- ・ 手頃にできる減災を考える
- ・ 被災地への寄付方法をSNSやアプリなど簡単にできるようにする

※1 SBL

仙台市地域防災リーダーの略。仙台市が独自のカリキュラムで養成している地域での防災の担い手。2019年2月末現在680名のSBLが活動中。



ステークホルダー間の連携をさらに強めるには？

ステークホルダー…年齢、性別、国籍などによらないあらゆる個人や団体。
多種多様なステークホルダーが防災に関わり連携し合うことが望ましいとされる。

市民センター

- ・人が集まる場所として日頃から利用する
- ・防災コーナー（展示）の作成を提案する
- ・町内会と防災講座を共催する
- ・補助避難所としての利用方法を知っておく

病院

- ・災害時に備えて避難所運営マニュアルを共有する
- ・避難所運営委員会への参加を呼びかける
- ・一緒に防災訓練を行う

障害者・高齢者

- ・避難や支援の体制をあらかじめ考えておく
 - ▶判断材料として認知症や障害への理解を深める
 - ▶災害時の高齢者支援を考えるため、地域包括支援センター※2から情報を得る
 - ▶介護や障害の程度に応じて「いっつき避難場所」で避難所を割り振れるような体制にする
- ・普段から見守りを行う
- ・施設を訪問して関係を作っておく
- ・地域住民に施設の存在・役割を周知する
- ・施設と一緒に防災訓練をする

乳幼児がいる家族

- ・防災に女性の視点を入れる
- ・乳幼児とその家族のために災害時に何が
必要か、地域で共有して理解する

外国人

- ・地域にどの国の人が多いか情報を得る
- ・地域の表示を工夫する
 - ▶英語などの表示をつける
 - ▶文化の違いに配慮し、どの国の人でも分かるイラストを使う
- ・災害時の行動について分かるように教える
- ・普段から地域でコミュニケーションを取る
- ・翻訳アプリを使う
- ・一緒に防災訓練を行う
- ・市内の先進的な地域の事例を学ぶ
- ・日本語のできる留学生から協力を得る
- ・仙台観光国際協会※3に相談する

企業・お店など

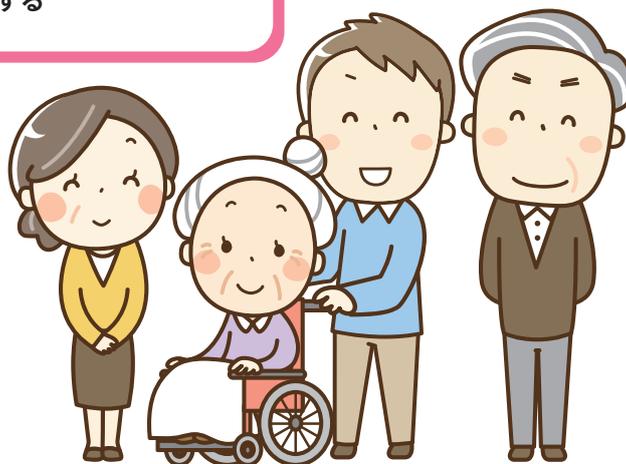
- ・避難場所としての利用について相談する
- ・業界団体と連携する
- ・その企業が地域の一員としてできることを提案していただくなど、理解を深め合う
- ・防災協定を結ぶ
- ・一緒に防災訓練を行う

※2 地域包括支援センター

高齢者やその家族の方が、介護・福祉・健康・医療などについて無料で相談できる施設。仙台市が運営管理を委託しており、市内52か所に設置されている。

※3 仙台観光国際協会

国内外からの観光客誘致や国際交流・多文化共生を担う組織。外国人住民を巻き込んで行う「多文化防災」に関する事業も多数行っている。



国内外へ伝えたい、私たちのBOSAI

わたしたちが経験した東日本大震災の教訓を伝えることによって、様々な地域の人たちがこれから起こりうる災害に備え、被害を最小限に抑えたり、復興に役立てることが出来ます。

- **命を守ることが何より大事。** そのためには適切に避難しよう！
- **災害はいつやってくるか分からない。** 常に備えておこう！
- 避難所に行っても、設備や物資がすべてそろっているわけではない。公助だけでは限界があることを知り、**自助・共助**に取り組もう！
- 防災の講座を企画するなど、**みんなが防災の知識を得る機会**を作ろう！
- 震災遺構やメモリアル施設を訪問するなど、**災害を経験した人の生の声**を聞こう！
- 防災より **減災（災害による被害を減らすこと）**を考えよう！
- **一緒に活動する仲間**がいるから、普段の防災・減災の活動も、災害時も頑張れる。
 - ▶ PTA 活動、お茶っこ(茶話会)など、地域・学校との日頃のつきあいを大切にしよう！
 - ▶ 自分の地域だけでなく、他地域の人とも情報交換しよう！
 - ▶ 女性どうしのつながりも作ろう！

東日本大震災から8年。

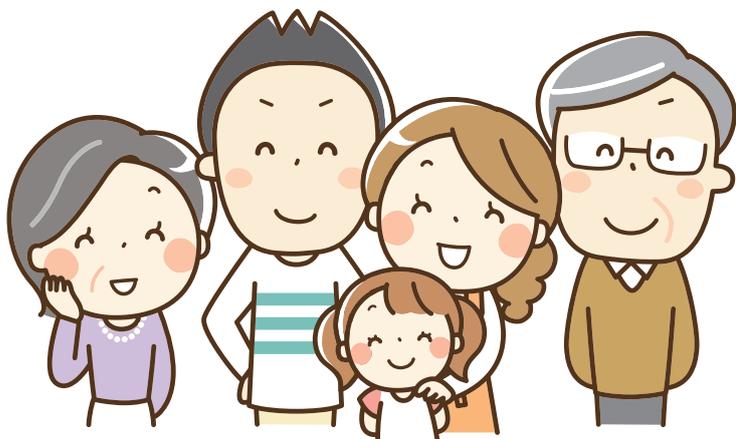
私たちには震災の経験から学び、

できるようになったことがたくさんあります。

私たちは、これからも思いやりの気持ちを大切にして

一緒に防災に取り組む仲間とともに

震災の教訓をしっかりと未来へつないでいきます。



仙台市民が**仙台防災枠組**から考える事例集

未来へつなごう私たちのBOSAI 2019

発行日 2019年3月10日

作成者 平成28年度～平成30年度仙台防災枠組講座シリーズ受講生
阿部哲也・有賀弘紀・大内幸子・菅野澄枝・
菊地正衛・草貴子・関内昭一・若生彩（五十音順）

発行者 東北大学災害科学国際研究所・仙台市

内容に関するお問い合わせ先

仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室
TEL/ 022-214-8098 E-mail/ mac001605@city.sendai.jp

仙台防災枠組について(防災環境都市・仙台ホームページ)
<https://sendai-resilience.jp/sfdrr/>